

3/25 (土)

市岡 飛斤 屋早

市岡 里親委託率 全国一

官民協働の取り組み奏功

社会的養護を必要とする児童のうち里親に委託された児童の割合を示す「里親委託率」について、静岡市は2015年度末の厚生労働省の調査で、46・9%と全国で最も高かったことが分かった。市児童相談所がこのほ

必要な市内の児童は130人で、このうち61人が里親のもとで養育されている。里親委託率は全国2番目だった14年度末比で7・7ポイント上昇した。ただ、市児相は「依然として里親数は不足している」とし、19年度末の里親委託率を50%とする目標を掲げている。

里親制度の普及啓発は都道府県や政令市、中核市の一部が設置する児童相談所が主体となるのが一般的。静岡市の場合は市児相がNPOに業務を全面委託する全国でも珍しい手法を採用し、市里親会が里親制度の広報活動、里親になる人への事前研修、里親相談などに当たっている。

児童相談所は近年、児童虐待などの対応に追われるケースが多いとされる。厚生省調査は児相を設置する69の自治体別に行われ、15年度末の里親委託率は全国平均17・5%、静岡市は20・9%だった。

静岡市の委託率の高さについて、市児相の担当者は「NPOによるきめ細やかな里親支援のおかげ。官民連携の先進的なモデルが委託率に結び付いた」との見方を示す。

(政治部・鈴木文之)

働省の調査で、46・9%と全国で最も高かったことが分かった。市児童相談所がこのほ

家庭支援センターとの協働による先駆的な取り組みが奏功したとしている。

市児相によると、15年度末の社会的養護が

%が最も多く、「導入効果が見えない」(58・6%)、「使いこなすのが難しい」(39・1%)と続いた。